

東京女子大学

AI・データサイエンス教育について

—外部評価報告書—

2026年2月

外部評価委員

たかはし なおこ
高橋 尚子

國學院大學経済学部教授、

情報処理学会情報処理教育委員会委員

2026年2月27日

東京女子大学 AI・データサイエンス教育について

評価者氏名 高橋 尚子

当該プログラムが、学生の数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、かつ、数理・データサイエンス・AIを適切に理解し、それを活用する基礎的な能力を育成することができるかについて、以下のとおり評価いたします。

主に、2025年度の「AI・データサイエンス教育プログラム（認定制度）」に関する開講科目、設置状況について、「5.AI データサイエンス教育に係る自己点検・評価」報告書を参考にしました。

—教育内容・手法について

・必修科目「DS・ICT 入門 I/II」について

それぞれ27クラスという多くのコマを開講し、全学生に履修させるのは、統制・マネジメントも含め難しいことは察します。さまざまな背景をもった、専任・非常勤を含め多数の教員が、同じ内容・レベルでの授業で安定させるには時間がかかるかと思えます。教員間の風通しを良くすることが重要と考えます。また、テキストが統一されているのは良いことですが、課題内容やその評価基準が統一されているかはシラバスから判断できませんでした。もし、統一されているのであれば、開示することで、公平感がでて学生も安心かと思えます。ルーブリックのようなものを用意するのもよいかと思えます。

・科目によって学生の履修登録に偏りがあるとの報告があり、想定範囲内とは思いますが解決策が必要です。必修科目は、学科ごとにクラス指定されているかと思えますが、選択必修の場合は曜日・時限の配置など検討してはどうでしょうか。選択必修「DS 基礎」は、2026年度にはシラバスを統一するとのことですが、テキストも統一する予定であればなお良いです。まずは何を教えるか統一し、教材（テキスト）を統一し、どう教えるかは教員に任せ、評価基準は統一するのはどうでしょうか。同じ科目であっても教員の評判や授業の様子は、SNS などであつという間に伝達・比較されます。これらに対応するには、統一基準であることを明示するのがよいかと思えます。

- ・教育内容については、その目標である「多様な分析の方法を理解するだけでなく、自ら有益な情報、知見を引き出し、分析する能力」を身に着けるための必要な科目は、概ね揃っていると評価します。履修のモデルケースが掲載され履修者の目標やタイプで選べるのはよいと感じました。

―当該科目により期待される学修成果について

- ・「AI データサイエンス教育に係る自己点検・評価」報告書によると、実際の認定申請者の割合が低いのが気になります。プログラム認定にはならないとすると、モチベーションが下がるのかもしれませんが。外部企業の話だけでなく、認定された先輩達が就職活動にどのように活用したか、企業内でどのように応用して仕事をしているか、話を聞けるようになってくると改善するように思います。
- ・学生アンケートの結果も、肯定的なものが多く、単位修得率が100%と意欲的に取り組んでいるとわかります。一方で必修科目が退屈な学生もいるようで、大学入学共通テストの「情報」でも、データ処理を意識した問題が出題されました。これを参考に、大学生が社会に出る前に何を習得すべきか社会人のデジタルリテラシーを検討する必要があるかと思います。また「専門用語がわからない」が一定程度いることも、リテラシーや語彙力をどのように上げるか検討できるとよいです。

―その他

- ・この AI・データサイエンス教育プログラム（認定制度）が、さらに学生に浸透し、多くの学生が認定され、社会に役立つ人材となることを期待します。数理科学科の学生に偏るのは残念ですが、まだまだデータサイエンスが理系科目と見られているからかもしれません。プログラミング・数式なしで、徹底した人文社会に寄り添ったデータサイエンス科目を設置するのも手段かもしれません。例えば、統計データを読み、比較するようなもの、補助的に表計算ソフトを使用する程度のものがあれば理想です。
- ・広報誌や外部企業と連携した講座の開講など、学生への周知、啓蒙活動を行っていることは良いと評価します。これらの重要性が、保護者に浸透し、学生に影響してくれることを願います。特に女子にとって、保護者からの進言は大事と感じています。

以上